

昭和42年度秋季年会記念写真

(水沢緯度観測所において)

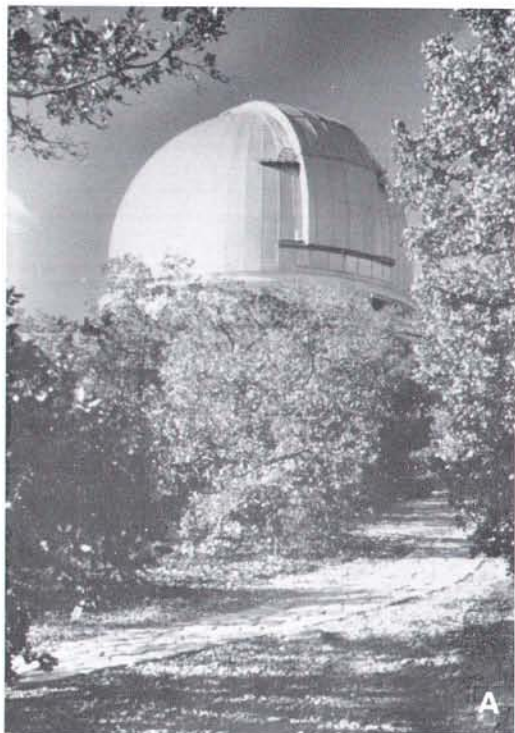


日本天文学会昭和42年度秋季年会記事

本年度秋季年会は10月24日及25日の二日間にわたって、水沢緯度観測所において行なわれた。連日の出席者は約170人であり、88の研究発表が次のように行なわれた。

第1日 (10月24日)			第2日 (10月25日)		
	講演番号	座長		講演番号	座長
午前	{ 1~9	上田 穰	午前	{ 48~57	広瀬 秀雄
	{ 10~17	秋山 薫		{ 58~64	上野 季夫
午後	{ 18~26	清水 壺	午後	{ 65~76	一柳 寿一
	{ 27~36	大野 陽朗		{ 77~89	野附 誠夫
	{ 37~47	藤田 良雄			

なお第1日の理事会では昭和43年度春季年会は東京において5月中に行なうことが予定された。また第2日の大塚奨学金についての選考委員会では、昭和42年度の奨学金6万円が藪保男氏(滋賀県)に支給されることが内定した。藪氏は京大宇宙物理学教室において流星の三色測光の研究を行なう予定である。



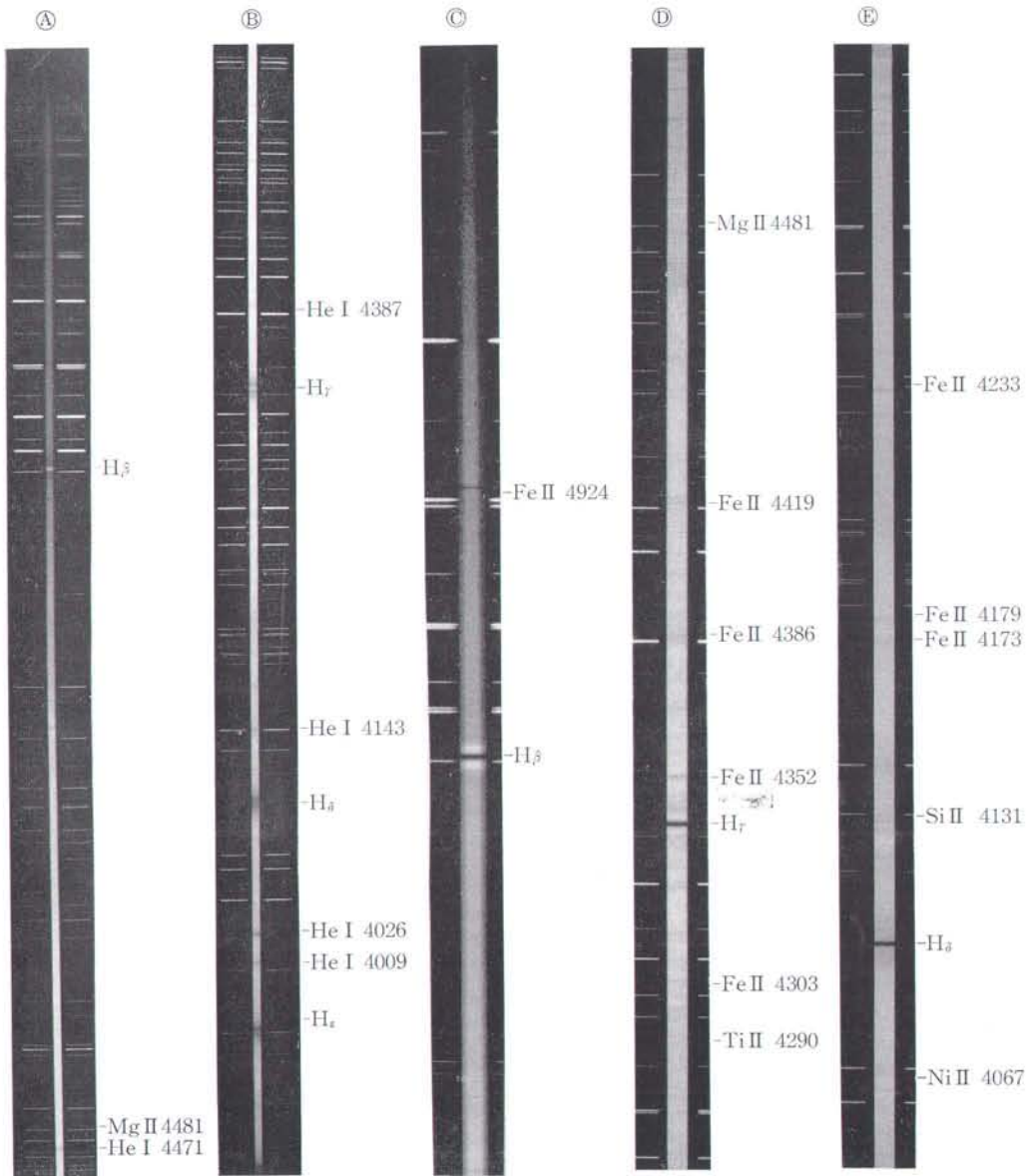
オートプロバンス天文台

- (A) 193 cm ドーム
- (B) 193 cm 反射望遠鏡
- (C) 193 cm 反射鏡コントロールデスク

(本文記事 247 頁参照)



正常 Be 星とガス殻星のスペクトルの例



A, B: HD 32343 (11 Cam) B2 Ve

バービッチ夫妻 (1953) によるとこれまでに輝線の二重化をおこしたことの無い、典型的な pole-on 星。

C, D, E: HD 217050 (HR 8731) B2 p

代表的なガス殻星の1つであるが、スペクトル変化はむしろ小さい、Fe II のガス殻吸収線の発達が著しい。

これらのスペクトルはいずれもオートプロバンス天文台 193 cm 反射鏡グレーデ分光器で撮影されたもので、分散は 9.7 Å/mm (IIa O⁺) である。(本文記事 247 頁参照)